科目名	地域・在宅看護方法論Ⅳ	対象学年・時期	2年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・15時間
講義概要	ディプロマポリシー3に基づく。日本における保健医療福祉の動向は、要介護人口の増加と認知症および精神科疾患の増加、医療的ケア児の増加に対応するために地域包括ケアシステムが整備されている。地域に暮らす人々の「暮らすこと、生きること」を支えるためには、予防的な側面からとらえることや、対象の生活を支えるためのシステムや施策を視野にいれ、問題解決的な思考力を用い看護実践が必要である。同時に、自宅で暮らす対象の現象を捉え、即時的に看護する臨床判断能力が必要である。 本科目では、地域・在宅の場において、対象に起こる症状や状況から健康上の問題点と解決策を考える思考力と、その場その時の状況を判断し対応する力を身につける。		
講義形態	講義、演習(グループワーク)		
学習目標	1. 在宅看護における看護過程の展開方法が理解できる 2. 在宅看護における臨床判断が理解できる		
学習内容 (授業計画)	1回目：在宅看護過程の展開 ICFの概念、要介護高齢者への在宅看護 2回目：情報収集と情報の整理、アセスメント 3回目：全体像を考える 看護問題の抽出 4回目：看護問題の抽出、看護計画立案 5回目：事例に関連した臨床判断① 6回目：事例に関連した臨床判断② 7回目：事例に関連した臨床判断③ 8回目：まとめ　※グループワークを中心に行います		
使用テキスト	ナーシンググラフィカ　在宅療養を支える技術　メディカ出版		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	【事前学習】・看護を展開する思考技術(1年・後期)や他領域での看護過程の資料をよく読んで来きてください。 ・事例をよく読見込んで授業に臨んでください。 【事後学習】・その日に学習した授業プリントやテキストの該当部分を見直すこと。		
評価基準と 評価方法	パフォーマンス評価（課題提出状況、看護過程展開の内容、臨床判断の演習評価）		
備考	課題は必要時に授業のときに伝えます。追加学習を主体的に行いましょう。		